

令和2年度 調布市立石原小学校 学校評価報告書（学校長 江原 幸一）

学校の教育目標

- (1) 根気よく学ぶ子（今年度の重点） 主体的に学ぶ意欲をもち、自らを高めようとする。（問題解決力、判断力）
- (2) 明るく元気な子 心身を鍛え、前向きに生活する。（体力、学習への意欲）
- (3) なかよく助け合う子 自分と他者の生命や個性を尊重し、人間関係を築く。（コミュニケーション力）

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

○本校に通う一人一人の子供たちを教職員全員が大切に思い、様々な境遇にある子どもたちにとって、安心感があり居場所のある学校を目指す。

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)			
自己評価	(1) 取組目標 (具体的方策)	評価	(1) 取組目標 (具体的方策)	評価	(1) 取組目標 (具体的方策)	評価
	① いじめアンケートの実施 (年5回)	A	① 学習アンケートの実施 (年3回)	A	① 休み時間の外遊びの励行	B
	② あいさつの励行と定着	B	② 家庭学習の定着	B	② 食物アレルギーへの対応を怠ることなく、給食の残菜を減らす	B
	(2) 成果目標 (数値目標)	評価	(2) 成果目標 (数値目標)	評価	(2) 成果目標 (数値目標)	評価
	① 発見から解決まで1ヶ月以内を目指す。その後も全教職員、保護者、地域関係者等の様々な視点により継続して観察し、再発を許さない取り組みを行う。	A	① 学期1回のアンケート調査により、学習が楽しいと感じる児童が80%以上を目指す。	C	① 全児童の95%以上が中休み及び昼休みにおいて、外遊びを行うことを目指す。(各学級の実態をもとに把握。)	A
② 自らすすんであいさつする児童が90%以上を目指す。	B	② 各家庭、調布学園等と連携を密にし、定着率95%以上を目指す。(各学級の実態をもとに把握する。)	B	③ 食物アレルギーに関するヒヤリハット年間0件とし、毎日の残菜の量が90リットル以下となることを目指す。特に和食メニューの工夫を行う。	B	
学校関係者評価	○深刻ないじめが起きていないことは、教職員の見取りがきめ細やかで、未然に防止できている証であろう。 ○挨拶はよくできている、地域で会っても会釈や挨拶をしてくれる。		○家庭学習は家庭のしつけに直結するであろう、タブレットが一人一台配備されたのは評価したい。		○密を避けながらの分散遊びはよいと思う。工夫しながら活動を続けてくれるとありがたい。 ○給食はおいしいとの評判である。アレルギー事故は起こさないでほしい。	

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 特別支援教育	5 キャリア教育	6 新型ウィルス対策			
自己評価	(1) 取組目標 (具体的方策)	評価	(1) 取組目標 (具体的方策)	評価	(1) 取組目標 (具体的方策)	評価
	① 通級指導、個別指導の充実	A	① その道のプロフェッショナルを招聘した授業 (年5回)	B	① マスク着用、手洗いの励行、3密の回避による教育活動	A
	② 都立特別支援学校との交流活動 (年2回)	—	② 小中連携による交流活動・授業 (年2回)	—	② 風評や差別の防止	A
	(2) 成果目標 (数値目標)	評価	(2) 成果目標 (数値目標)	評価	(2) 成果目標 (数値目標)	評価
	① 拠点校および巡回校ともに、適切な退級率100%を目指す。また、日本語指導教員による個別指導を週22時間実施。	B	① 活動を終えての感想文による肯定的な内容のもの95%以上、自らのキャリア展望に触れたもの20%以上を目指す。(音楽、オリパラなど)	B	① 新型ウィルスの感染者0人を目指す。	B
② ノーマライゼーションの意識高揚を目指し、障害に対する差別や偏見のない、差別感のない温かな内容の感想文、100%を目指す。	—	② 中学校生活を楽しみにする感想を抱く児童の数が90%以上を目指す。	B	② 全校朝会及び学級指導、学年指導等により、各学期1回以上、風評被害や感染者・医療従事者等への差別防止に向けた指導を行う。	A	
学校関係者評価	○個々の課題に応じた教育を今後とも続けてほしい。通級指導は有効だと思う。		○今年はエアロビックと縄跳びを取り組んだようで、休み時間に縄跳びを取り組む児童が多く見かけられた。今後も運動への関心や意欲を養ってほしい。		○11月下旬、児童に感染者が出たがその後は広がっていないので安心した。こまめな消毒も行っているとのことで、無理のない範囲で実施してほしい。	

人材育成・組織運営

自己評価	<p>【若手教員育成】 ①若手（採用4年目まで）と主任クラスをペアで組織をつくったので、効果的な育成が図られた。</p> <p>②校内ミニ研修(15:30-15:45)を8回行い、学習指導・生活指導・校務処理などの問題解決や相互研鑽を行うことができた。</p> <p>③人間性を豊かにするためにその道のプロ2名の招聘を行い、職員自身の感性を刺激し、視野や見聞を広めることができた。</p> <p>【円滑な組織運営】 ①PDCAサイクルをもとに、改善すべき点は年度末を待たずに順次改善を図った。</p>
------	--

学校関係者評価	<p>○若手教員の育成体制、研修体制が充実していて安心している。</p> <p>○新聞やテレビなどの報道を見ていると、学校の先生はサービス残業が多いと聞く。効率的な職務遂行をめざして、体や心を壊す教員が出ないようにしてほしい。</p>
---------	---

**中期的な経営目標の達成状況**

- 1 教職員一人一人の人権感覚を豊かにするとともに全教育活動を通して人権教育を徹底し、児童の自立心と思いやりの心をはぐくむことにより、いじめや不登校等の問題行動の未然防止・早期発見に努める。  
→ おおむね達成できた。
- 2 学習指導要領の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を柱に、学習に興味や関心をもたせ、人や事象との対話・対話的活動を通して自らの考えを広げ深めたり、新たな問題を見出して解決したりする授業改善を推進していく。  
→ 新型ウィルスの影響で「対話する授業」は行うことができなかったが、主体的な学びについては、おおむね達成できた。
- 3 通級指導教室の拠点校として、校内通級教室の環境を整備・活用し、一人一人の教育的ニーズに応じた指導内容・方法の充実を図る。  
→ 通級指導教員9名の連携はよく、チームとして教育目標をおおむね達成できた。
- 4 全教職員が組織の一員として協働し相互研鑽することを目指すとともに、学校運営に参画する意識をもち組織体として教育活動を行う。  
→ 異動の教員が6名と多かく、児童や情勢における様々な困難な課題が多く存在していたが、協働し相互研鑽することはおおむね達成できた。

**次年度の重点課題**

◎ タブレット端末などの ICT 機器を積極的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」を柱に、学習に興味や関心をもたせ対話的活動を通して自らの考えを広げ深めたり、新たな問題を見出して解決したりする授業改善をより一層推進していく。